



### 福祉ボランティア活動

こんな悲しいことが

本当にあったのです

お独りで暮しておられたご信者の方が亡くなり、身内、知り合いが分らないまま、やむなく、区の方で全部かたづけしてしまったと言うことです。勿論、御本尊もどくなつたのか分かりません。

本門佛立宗の御題目で送つて差し上げることが残念なことに出来なかつたのです。

少子、高齢化傾向に、歯止めがかららないのでは、いずれ、未婚でも、既婚であっても、独居老人は増大するのは間違いないでしょう。そうであるなら、ご信心という有難い出合の中で、私達信者どうしで、自衛手段を考えておこなうてはなりません。

お参詣の出来ない淋しい独り暮らしにならないために、普段的にご信者どうしが分り合い、手助け



し合えるような環境を早急に整備しておかなければなりません。

先日第一回ボランティアスタッフ委員会がもてたことは、第一歩を踏み出したことになりました。

平成七年の阪神大震災が起きた年が、日本全国の「ボランティア元年」でした。その年、宗門では「臨終まで信心を貫けるようにお手伝い」という理念のもとに「佛立ボランティア推進班」が発足しました。

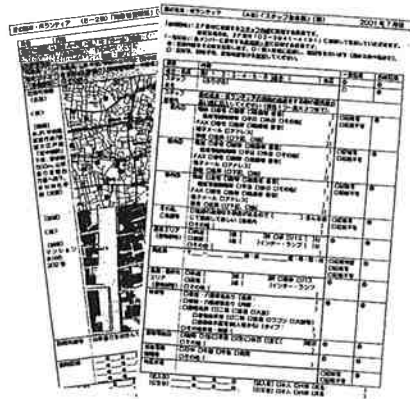
遠妙寺に於てのこれからの活動を、ご理解、ご協力をしていただくために、佛立新聞の文を抜す引用してみます。

#### 臨終まで信心を貫く事ができますか。

法区、連合内で、ご高齢のためご信心が続けられなくなつたあるいは、全く顔が見えなくなつたという方はいませんか。

例えば入院や老人ホーム等の施設への入所により、ご本尊が奉安

できないという理由で退転を余儀なくされる方がいませんか。又身体的理由により参加が出来なくなつた、ご宝前のお給仕ができなくなつた方のお話を聞くことがありませんか。



せっかくのご信心をいただきながら、肝心の臨終を迎える時になつて、高齢ということでご信心が続けられない、ということは本当に悲しいことです。

#### ほんの少しの援助からすること

が出来ます。具体的には、参詣できなくても聴聞と改良によつて、信心が清く保てるように、御法門のテープを届けてあげたり、その内容を聴き伝えてあげたり、体験

談等のお話をして差しあげる。又、ご宝前のお給仕等をさせていただく。

お寺や御講席等の連れ参詣の活動があります。

ほんの少しの援助があれば、参詣できる、ご信心が全うできる、という方が私達の周りには必ずおられるのです。

遠妙寺の福祉ボランティア活動が、スタートしました。先ずは、三大会、お彼岸会の送迎体制の確立からはじめました。

「ボランティアスタッフ」にどうぞなつて下さい。気軽になつて下さい。気軽にちよつとしたお手伝い(まだまだ募集中です！)

「介護希望者」になることを、遠慮なく申し出て下さい。何かあつたらたのむわね」という軽い気持ちで登録して下さい。

介護希望者カード・スタッフカードが出来ました。九月号掲載の要領で申し込んで下さい。

来る十一月四日のお大会には、スタッフが出てきて舞する程の申し込みがあればとワクワクドキクしています。